



# Solaris Express Developer Edition ご使用にあたって



Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 820-2592-03  
2008 年 1 月

Sun Microsystems, Inc. (以下米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に含まれる技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。また、それらに限定されるものではありません。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者によって開発された素材を含んでいることがあります。

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Mozilla、Netscape および Netscape Navigator は Netscape Communications Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。KCMS は、米国およびその他の国における Eastman Kodak Company の商標または登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn8 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright(C) OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. Copyright(C) OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2007 All Rights Reserved.

「ATOK for Solaris」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK for Solaris」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK」および「推測変換」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK for Solaris」に添付するフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

「ATOK for Solaris」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行なっています)。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれている情報は、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となることがあります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段への使用は、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国が禁輸の対象としている国や、限定はされませんが、取引禁止顧客や特別指定国民のリストを含む米国輸出排除リストで指定されているものの輸出および再輸出は厳しく禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris Express Developer Edition Release Notes

Part No: 820-0543-05

Revision A

# 目次

---

はじめに .....	7
<b>1 Solaris Express Developer Edition に関する注意事項とバグ情報 .....</b>	<b>11</b>
Solaris Express Developer Edition 1/08 に関する注意事項 .....	11
x86: ディスク全体のオプションを選択したときに Solaris のインストールが失敗することがある (6652417) .....	11
Acer FR 5000/1000 で Developer 1/08 OS のインストールが失敗する (6643143) .....	12
x86: Xorg は xorg.conf ファイルがないと RadeonHD ドライバを使用しない (6642276) .....	13
en_US ロケールの negative_sign が空である (6618050) .....	13
PRODRM には Solaris Trusted Extensions の prodreg エントリの削除に関する問題がある (6616592) .....	13
Solaris Trusted Extensions のアップグレードに関する注意事項 (6616585) .....	14
ログイン画面からの遠隔のマルチレベルログインが Solaris Trusted Extensions でサポートされていない (6616030) .....	15
gDesklets の起動が失敗する (6608943) .....	15
「リブートする」ボタンが反応しない (6270371) .....	16
SPARC: NFS/RDMA 接続エラー (6229077) .....	16
NetBeans Dynamic Tracing GUI プラグイン .....	16
uname -a の出力と /etc/release の内容のビルド番号が一致しない .....	17
x86: Solaris JumpStart が失敗する .....	17
JDK による GTK+ の問題 .....	17
Solaris Express Developer Edition 9/07 に関する注意事項 .....	18
x86: Vista のマルチブートインストールが失敗することがある (6598208) .....	18
予期していないヨーロッパロケールがインストールされる (6594145) .....	19
Sun4U システムで、CPR 復元再開後にネットワークアクセスが失われる (6593956) .....	19
中国語ロケールと韓国語ロケールで、ログアウトとシャットダウンを求めるメッセージの翻訳が間違っている (6592664) .....	20

x86: RTC の起動後にシグナル 11 SIGSEGV が終了する (6584707) .....	20
x86: 一部のマシンで入出力資源に関する不要な警告が発生する (6573171) .....	21
x86: ディスクサイズの間違いによって libspmistore.so の呼び出しで障害が発生する (6570738) .....	22
x86: gnome—about エラーメッセージ (6561499) .....	23
中国語ロケールでのログイン時にメニュー項目が英語で表示される (6555226) ..	23
512M バイトのインストールオプション (6512362) .....	23
C/POSIX 以外のロケールでは、ヘルプドキュメントにトピックが 2 件しかない (6412835) .....	24
x86: Sun Studio Express June 2007 と NetBeans のデフォルトブラウザが見つからない (6512279) .....	25
Developer 9/07 リリースで uid_t と gid_t の型に加えられた変更 .....	26
Solaris Express Developer Edition 5/07 に関する注意事項 .....	27
支援技術を使用すると閲覧中に Firefox がクラッシュする (6566708) .....	27
アップグレード後に inetd で警告が表示される (6557608) .....	28
x86: 最小ファイルシステムサイズでのインストール後にルート (/) ファイルシステムがいっぱい (100%) になる (6557276) .....	28
GNOME キーリングがクラッシュする (6552688) .....	28
SPARC: (ZFS) ARC がカーネルケージ内にメモリーを割り当てるため、DR が実行できない (6522017) .....	29
一部のキー配列が正しくインストールされない (6518611) .....	29
strftime(3c) は %m と %d で GNU 拡張をサポートすべき (6448815) .....	30
Apache Tomcat のシャットダウンに関する注意事項 .....	30
日本語版マニュアルページが英語版と同期されていないことがある .....	31
Solaris Express Developer Edition 2/07 に関する注意事項 .....	31
Solaris OS のインストール後、Linux パーティションが GRUB メニューに表示されない (6508647) .....	31
Solaris OS のインストール時に Linux パーティションが認識されない (6507774) ..	31
sd で、fdisk パーティション分割されたディスクが EFI パーティション分割されたディスクとして扱われる (6355349) .....	32
Solaris OS のインストール時に Solaris パーティションが認識されない (6346759) .....	33
デフォルトで Developer リリースがインストールされる .....	34
拡張パーティションが保持される .....	34
Solaris Express 11/06 に関する注意事項 .....	35
ゾーンに対応していないシステムでは、patchadd の -R オプションを使用して代替ルートパスを指定することは制限すべき (6464969) .....	35
Solaris Express 10/06 に関する注意事項 .....	36

JumpStart でキーボード構成が有効でなければならない .....	36
Solaris Express 7/06 に関する注意事項 .....	36
インストール結果の変更 .....	36
Solaris Express 6/06 に関する注意事項 .....	37
Solaris Express 4/06 リリースより前の Solaris OS に戻すと、システムで Solaris ボリュームマネージャーが起動しない .....	37
smosservice add コマンドは指定された ARCH=all パッケージをインストールしない (4871256) .....	39
Solaris Express 4/06 に関する注意事項 .....	39
Solaris Express 3/06 に関する注意事項 .....	39
x86: Solaris Express 3/06 OS へのアップグレード時にアップグレードオプションを使用できない (6386504) .....	39
Solaris Express 1/06 に関する注意事項 .....	40
x86: インストール後に Sun Java Desktop System のグラフィックスが破壊されることがある (6358446) .....	40
Solaris Express 12/05 に関する注意事項 .....	41
x86: ビデオカードが 1 枚しかないシステムで全画面の拡大鏡を設定できない ....	41
x86: USB マウスデバイスを拡張デバイスとして GNOME オンスクリーンキーボードと一緒に使用するよう設定するときの問題 .....	43
ゾーン用のパッチを削除したあとに pkgchk を実行すると、エラーメッセージが表示される (6267966) .....	46
Solaris Express 11/05 に関する注意事項 .....	47
SPARC: Sun Expert3D および Sun Elite3D ハードウェアの電源管理システムが動作しない環境がある (6321362) .....	47
x86: dtremote を使用すると GNOME アプリケーションが失敗する (6278039) .....	47
Solaris Express 6/05 に関する注意事項 .....	48
Solaris ゾーンがインストールされている場合に、Solaris Flash アーカイブを作成できない (6246943) .....	48
解決済みの統合されたバグ .....	48
<b>2 サポート中止に関する情報 .....</b>	<b>57</b>
Solaris Express リリースから削除された機能 .....	57
Sun Trunking のサポート .....	57
Sun Fire Link のサポート .....	57
モバイル IP .....	57
I2O インテリジェント入出力 .....	58
Remote Program Load サーバー機能 .....	58

---

pam_projects(5) .....	58
Gnopernicus .....	58
Xsun サーバー .....	58
Sun Install Check のリリースノート .....	58
SPARC: JNI ファイバチャネルアダプタ .....	59
Sun Java Desktop System .....	59
デスクトップ管理インタフェース .....	59
特定のドライバが Solaris Express 4/06 リリースでサポートされなくなる .....	60
コントローラデバイスとドライバ .....	60
デュアル基本速度 ISDN インタフェースとマルチメディアコーデックチップ ....	60
Framed Access Control Environment .....	60
アジアの短縮 dtlogin 名 .....	61
自動セキュリティー拡張ツールのサポート .....	61

# はじめに

---

本書『Solaris Express Developer Edition ご使用にあたって』では、インストール時および実行時の問題点について詳細を説明します。本書には、Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) でのソフトウェアのサポート中止に関する情報も含まれています。

---

注 - このリリースでは、SPARC® および x86 系列のプロセッサアーキテクチャ (UltraSPARC®, SPARC64, AMD64, Pentium, Xeon EM64T) を使用するシステムをサポートします。サポートされるシステムについては、Solaris 10 Hardware Compatibility List (<http://www.sun.com/bigadmin/hcl>) を参照してください。本書では、プラットフォームにより実装が異なる場合は、それを特記します。

本書では、「x86」という用語は AMD64 あるいは Intel Xeon/Pentium 製品系列と互換性のあるプロセッサを使用して製造された 32 ビットおよび 64 ビットシステムを意味します。サポートされるシステムについては、Solaris 10 Hardware Compatibility List を参照してください。

---

## 対象読者

本書は、Solaris に関する知識を持つ方、現在習得中の方を対象に、Solaris 10 をインストールして使用するために必要な情報を提供します。

## 関連マニュアル

Solaris ソフトウェアをインストールする際は、本書の内容を理解した上で、次のマニュアルをご利用ください。

- Java Desktop System Release 3 Solaris 10 Collection - Japanese
- 『Solaris 10 インストールの手引き』カード
- 『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』
- 『Solaris 10 インストールガイド (ネットワークインストール)』
- 『Solaris 10 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』
- 『Solaris 10 インストールガイド (カスタム Jump Start/上級編)』
- Solaris 10 System Administrator Collection

これらのマニュアルのコレクションは <http://docs.sun.com> で参照できます。

最新の CERT 勧告については、CERT の公式 Web サイト <http://www.cert.org> を参照してください。

ハードウェア構成によっては、Solaris オペレーティングシステムのインストール時に別途作業が必要になることがあります。その場合は、各ハードウェアの製造元から提供される『Solaris Sun ハードウェアマニュアル』などのインストール手順の補足資料を参照してください。

## 他社の Web サイト

このマニュアルでは、他社が提供している URL で関連する追加情報を参照します。

---

注- このマニュアル内で引用する第三者の Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。こうしたサイトやリソース上の、またはこれらを通じて利用可能な、コンテンツ、広告、製品、その他の素材について、Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上の、またはこれらを経由して利用可能な、コンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことによって発生した(あるいは発生したと主張される)いかなる損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

---

## マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、次のサービスに関する情報も提供しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。



表P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。  system%
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% <b>su</b> password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。  この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \  XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

|は区切り文字(セパレータ)です。この文字で分割されている引数のうち1つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します(例:Shiftキーを押します)。ただし、キーボードによってはEnterキーがReturnキーの動作をします。

ダッシュ(-)は2つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-DはControlキーを押したままDキーを押すことを意味します。

# Solaris Express Developer Edition に関する注意事項とバグ情報

---

この章では、現在のリリースでインストール時および実行時の問題として認識されている、注意事項とバグについて説明します。次に示す注意事項とバグは、すべて Solaris オペレーティングシステムに関連するものです。注意事項には、理解しておくべき前提条件、ヒント、トラブルシューティングのヒント、バグなどの情報が含まれます。バグは注意事項の一部で、括弧内に示された追跡番号が割り当てられています。これらのリリースノートで公開されているバグの最新情報については、SunSolve<sup>SM</sup> の Web サイトを参照してください。Solaris 10 OS に関連する注意事項の一覧については、<http://docs.sun.com> で『Solaris 10 ご使用にあたって』を参照してください。

---

注-本書では、アップグレードを実行する際に発生する特定の問題についても説明します。通常、Solaris Express リリースでアップグレード方法を使用する場合に、問題が発生する可能性があります。これらの問題が発生する場合は、システムの初期インストールと再構成が必要になることがあります。

---

## Solaris Express Developer Edition 1/08 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Developer 1/08 リリースに関連するものです。

### **x86: ディスク全体のオプションを選択したときに Solaris のインストールが失敗することがある (6652417)**

ディスク全体のオプションを選択すると、Developer 1/08 リリースのインストールが失敗することがあります。この障害は、fdisk エラーが原因で発生します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
ERROR: At least one 30 Mbyte Solaris fdisk partition is required on a selected drive
ERROR: System installation failed
```

回避方法: 次の手順を実行します。

1. OS のインストールを再起動します。システムをリブートするか、コマンド行で `install-solaris` と入力します。
2. デフォルトのディスクオプションを選択するか、ディスク画面でディスクオプションのパーティション分割を行います。

## Acer FR 5000/1000 で Developer 1/08 OS のインストールが失敗する (6643143)

Acer FR 5000/1000 マシンでは、Developer 1/08 OS のインストールが失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
configuring /dev
ata_id_common: BUSY status 0x80 error 0x80
ata_id_common: BUSY status 0xfe error 0x0
ata_id_common: BUSY status 0x80 error 0x80
ata_id_common: BUSY status 0xfe error 0x0
atapi_start_cmd: drive select failed
WARNING: /pci@0,0/pci-ide@14,1/ide@0 (ata2):
timeout: early timeout, target=0 lun=0
atapi_start_cmd: drive select failed
WARNING: /pci@0,0/pci-ide@14,1/ide@0 (ata2):
timeout: early timeout, target=0 lun=0
```

回避方法: 次の手順を実行します。

1. ブートプロセスで `kmdb` がロードされるように、`-k` オプションを使ってシステムを起動します。`-d` ブートオプションを使用して、カーネルの起動前にデバッガのブレークポイントを要求します。

```
ok boot -kd
```

2. ブレークポイントを `[0]>kmdb` デバッガプロンプトに設定します。

```
:::bp ata'ata_init_controller+0x165
```

3. ブレークポイントがヒットしたら、汎用レジスタ `$r` を印刷して、`$eax` または `$ebx` に、有効な `ata_ctl_t` 構造体が含まれていることを確認します。

```
<address>:::print -a ata_ctl_t
```

4. `ac_timing_flags` のアドレスを取得し、`0x0` ~ `1` の値を設定します。

```
<address>/W 1
```

ブレークポイントが複数回ヒットする場合がありますが、`ac_timing_flags` 値を設定してある場合は問題ありません。

5. OS のアップグレードを再開します。

これらのコマンドについての詳細は、『Solaris Modular Debugger Guide』を参照してください。

## x86: Xorg は `xorg.conf` ファイルがないと RadeonHD ドライバを使用しない (6642276)

Developer 1/08 リリースには、ATI Radeon X1000 および ATI Radeon HD2000 シリーズのグラフィックスカードとチップセット用のビデオドライバが組み込まれています。その新しいドライバを `xorg.conf` 構成ファイル内に指定しない限り、Xorg がそれを検出したり、使用したりすることはありません。Xorg は、代わりに VESA ドライバを使用しようとはしますが、このドライバはすべての Radeon グラフィックスデバイスで動作するとは限りません。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: `/usr/X11/bin/Xorg -configure` コマンドを入力して、インストール後に `/etc/X11/xorg.conf` ファイルを生成します。 `xorg.conf` 構成ファイルが RadeonHD ドライバを指定していることを確認します。

## en\_US ロケールの `negative_sign` が空である (6618050)

既存の欧州/中東/アフリカ (European and Middle East and African、EMEA)、中南米、およびオセアニアのロケールのロケールデータは、プラットフォーム間の互換性を最大限に実現するため、CLDR (Common Locale Data Repository) に移行されています。Solaris 10 から Solaris Express リリースにアップグレードする場合、既存のアプリケーションはロケールに依存するデータを異なった形式で認識することがあります:

回避方法: Solaris ロケールをカスタマイズします。Solaris ロケールをカスタマイズする手順については、[http://developers.sun.com/dev/gadc/techtips/locale\\_customization.html](http://developers.sun.com/dev/gadc/techtips/locale_customization.html) の情報を参照してください。

## PRODRM には Solaris Trusted Extensions の `prodreg` エントリの削除に関する問題がある (6616592)

Solaris Trusted Extensions を Solaris 10 11/06 または Solaris 10 8/07 リリースから最新の Developer 1/08 リリースにアップグレードしている間、Solaris Trusted Extensions の `prodreg` エントリは削除されません。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: Solaris Trusted Extensions を最新リリースにアップグレードしたあとで、次のように prodreg エントリを手動で削除します。

```
# prodreg unregister -f -r -u "Solaris Trusted Extensions" -i 1
```

## Solaris Trusted Extensions のアップグレードに関する注意事項 (6616585)

Solaris Trusted Extensions を Solaris 10 11/06 または Solaris 10 8/07 リリースから最新の Developer 1/08 リリースにアップグレードしている間、ローカライズされた不要な Solaris Trusted Extensions パッケージがシステムにインストールされます。このバグは、Solaris 10 11/06 または Solaris 10 8/07 リリースに含まれる Solaris Trusted Extensions インストーラが、ローカライズされたパッケージをデフォルトでインストールするために発生します。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: Solaris Trusted Extensions を最新リリースにアップグレードする前に、次のローカライズされた Solaris Trusted Extensions パッケージを削除します。

---

SUNWjdtts	SUNWkdts
SUNWjmgts	SUNWkmgts
SUNWjtsman	SUNWktsu
SUNWjtsu	SUNWodts
SUNWtgnome-l10n-doc-ja	SUNWtgnome-l10n-ui-ko
SUNWtgnome-l10n-ui-it	SUNWtgnome-l10n-ui-zhHK
SUNWtgnome-l10n-ui-sv	SUNWtgnome-l10n-ui-es
SUNWtgnome-l10n-doc-ko	SUNWtgnome-l10n-ui-ptBR
SUNWtgnome-l10n-ui-ja	SUNWtgnome-l10n-ui-zhTW
SUNWtgnome-l10n-ui-zhCN	SUNWtgnome-l10n-ui-fr
SUNWtgnome-l10n-ui-de	SUNWtgnome-l10n-ui-ru

---

## ログイン画面からの遠隔のマルチレベルログインが **Solaris Trusted Extensions** でサポートされていない (6616030)

ログイン画面の「オプション」メニューの「リモートログイン」の項目を、マルチレベルの Solaris Trusted Extensions システムへの遠隔ログインに使用することはできません。システムのラベルが、ラベルのないシステムに割り当てられているラベルと同じ場合は、そのラベルのないシステムに遠隔でログインすることができます。

回避方法: 遠隔でログインする場合は、『Solaris Trusted Extensions Administrator's Procedures』の第 14 章「Remote Administration in Trusted Extensions (Tasks)」の手順を参照してください。

## gDesklets の起動が失敗する (6608943)

新しいユーザーとしてシステムにログインすると、gDesklets の起動が失敗します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
bash-3.00$ gdesklets shell
```

```
You're running gDesklets for the first time.  
gDesklets will start a requirements check now...
```

```
Checking requirements:  
- sys ... found  
- xml.parsers.expat ... found  
- xml.sax ... found  
- gtk ... found  
- ORBit ... found  
- bonobo.ui ... missing  
Version check failed.
```

```
bonobo python bindings are required.
```

回避方法: 次の手順を実行します。

1. ホームディレクトリに移動します。

```
cd <home_directory>
```

2. 次のコマンドを入力します。

```
mkdir .gdesklets
```

## 「リブートする」ボタンが反応しない (6270371)

Solaris OS のインストール後、「リブートする」ボタンが動作しません。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. 端末ウィンドウを開きます。
2. 次のコマンドを入力します。

```
# touch /tmp/.instsuccess  
# pkill -9 java
```

システムがリブートします。CD は必要ありません。

## SPARC: NFS/RDMA 接続エラー (6229077)

RDMA (Remote Direct Memory Access) の使用中に、NFS サーバーとクライアントとの間で接続エラーが発生する場合があります。これらのエラーにより、バッファープールの資源が使い尽くされ、システムパニックが発生します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
rpcib: WARNING: rib_rbuf_alloc: No free buffers!
```

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- TCP が有効になるように NFS サーバーを設定します。/etc/default/nfs ファイルで、NFS\_PROTOCOL=tcp に変更します。
- クライアント側から proto=tcp マウントオプションを使用して NFS ファイルシステムをマウントします。

詳細は、mount\_nfs(1M) および nfs(4) のマニュアルページを参照してください。

## NetBeans Dynamic Tracing GUI プラグイン

NetBeans™ Dynamic Tracing (DTrace) GUI プラグインは、NetBeans 6.0 および Sun Studio ソフトウェアのインストール中にインストールされます。このプラグインは、使用前に手動で設定する必要があります。

回避方法: DTrace GUI プラグインを使用するには、DTrace スクリプトを /opt/dtrace-gui からホームディレクトリにコピーします。

```
cp -r /opt/dtrace-gui/DTraceScripts $HOME/  
chmod -R 755 $HOME/DTraceScripts
```

これで Dtrace GUI プラグインのインストールが完了しました。



このプラグインについては、`/opt/dtrace-gui/doc/NetBeans_DTrace_GUI_Plugin.html` ファイルを参照してください。このファイルには、`/etc/user_attr` ファイル内の特権の設定方法や Dtrace GUI の起動方法が説明されています。必ず特権の設定に使用するシェルとは異なるシェルから NetBeans または Sun Studio IDE を起動するようにしてください。

## uname -a の出力と /etc/release の内容のビルド番号が一致しない

`uname -a` コマンドは、カーネルのビルド番号を Build 79a として表示します。しかし、`/etc/release` の内容は Build 79b です。これは、Developer 1/08 OS の最終アセンブリのビルド番号です。

回避方法: ありません。

## x86: Solaris JumpStart が失敗する

`sysidcfg` スクリプトのネットマスク値が定義されている場合、Solaris JumpStart™ は対話型モードになります。エラーメッセージは表示されません。ネットワークデータが不足しているため、`sysidtool` が起動します。

回避方法: `sysidcfg` スクリプトのネットマスク値を指定しないでください。

## JDK による GTK+ の問題

GTK の見た目と使い心地に関するライブラリのロード中に、Sun Studio IDE で表示上の問題が発生する場合があります。これらの問題は、JDK™ 6 Update 3 のバグによるものです。たとえば、次のような表示上の問題が発生します。

- 「Run」メニュー項目のアイコンによってラベルが部分的に隠れる
- 「Debug」ツールバーが「Build」ツールバーの2倍の大きさになる

回避方法: JDK の代替バージョンを使用します。たとえば、次のように指定します。

```
% sunstudio --jdkhome /usr/jdk/jdk1.5.0_13
```

## Solaris Express Developer Edition 9/07 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Developer 9/07 リリースに関連するものです。

### x86: Vista のマルチブートインストールが失敗することがある (6598208)

Windows Vista の fdisk では、ディスクドライブの追加セクターの割り当てに新しいアプローチが使用されています。Vista では、2048 セクターの倍数で容量が割り当てられます。この変更により、Vista がプリインストールされているラップトップの一部で、Developer 9/07 のマルチブートプロセスが影響を受けます。インストール時に、fdisk コマンドで既存のパーティションテーブルを読み取る際にエラーが報告されます。

Windows Vista が使用されているシステムに Developer 9/07 リリースをインストールする場合、次に示す 2 つの障害のいずれかが発生することがあります。

- 次のエラーメッセージでインストールが失敗する。

```
Not enough free space
```

- 次のエラーメッセージで fdisk が失敗する。

```
fdisk: Cannot Create partition table
```

問題が存在するかどうかを次のコマンドで確認します。

```
fdisk -d <device>
```

たとえば、次のように指定します。

```
# fdisk -d c0d0p0
Physical Geometry:
  cylinders[30400] heads[255] sectors[63]
  sector size[512] blocks[488376000] mbytes[896]
Virtual (HBA) Geometry:
  cylinders[30400] heads[255] sectors[63]
  sector size[512] blocks[488376000] mbytes[896]
Partition Table Entry Values:
SYSID  ACT   BHEAD  BSECT  BEGCYL  EHEAD  ESECT  ENDCYL  RELSECT  NUMSECT
191    128    0       1       1       254    63     1023    16065    488359935
100     0       0       0       0       0       0       0       100      100
100     0       0       0       0       0       0       0       100      100
100     0       0       0       0       0       0       0       100      100
```

最大ディスク容量はブロック数で 48837600 と示されています。割り当てられる最高セクターは、パーティションテーブルから計算すると  $16065 + 488359935$ 、つまり 488376000 です。割り当てられる最高セクターがディスク容量より大きい場合は、問題が存在します。

---

注 - Solaris をこのシステムにインストールしない場合は、インストール CD または DVD を使用してブートし、インストールプロセスの初期に終了オプションを選択してシェルに戻ることができます。

---

回避方法: 影響を受けるハードディスクパーティションのリカバリ CD を作成します。次の手順を実行します。

1. Windows Vista を起動します。
2. 最後のパーティションを縮小します。「Windows」->「コントロールパネル」->「システムとメンテナンス」->「管理ツール」->「ハードディスクパーティションの作成とフォーマット」の順に選択します。
3. 右側にある最後のパーティションを右クリックし、「ボリュームの圧縮」を選択します。ボリュームを約 9M バイト縮小します。  
Vista の fdisk と Solaris インストーラの fdisk では計算が異なるため、Vista の最後のパーティションについて既存のサイズを約 9M バイト調整することで Solaris インストーラのエラーを解決できます。
4. システムをリブートし、Solaris OS をインストールします。

## 予期していないヨーロッパロケールがインストールされる (6594145)

効率化された新しい Solaris インストーラでは、英語も含めいずれかのヨーロッパ言語のサポートを選択すると、ほかのヨーロッパロケールの一部もインストールされます。これは、現在のパッケージが地理に基づいているためです。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: ありません。

## Sun4U システムで、CPR 復元再開後にネットワークアクセスが失われる (6593956)

hme を使用している Sun4U™ システムでは、保存停止処理からの復元再開後に、ネットワークアクセスが失われます。Ultra 10、Ultra 60、および Ultra 80 システムでは通信が失われ、ping を実行したり ping に応答したりできなくなります。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- システム全体の電源管理を使用不可にして、suspend コマンドを使用しないようにする。
- 保存停止処理からの復元再開後に、コマンド `snoop -d hme0 -c1` を使用する。

## 中国語ロケールと韓国語ロケールで、ログアウトとシャットダウンを求めるメッセージの翻訳が間違っている (6592664)

このバグは、簡体字中国語および韓国語のユーザーに影響します。ユーザーがログアウトまたはシステムのシャットダウンを行おうとすると、次のいずれかのメッセージを示すダイアログが表示されます。

```
You will be automatically logged out in 60 seconds
```

または

```
The system will be automatically shutdown in 60 seconds
```

簡体字中国語および韓国語の翻訳では、これらは意味のないメッセージになっています。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: OpenSolaris コミュニティーから `gnome-panel.mo` をダウンロードし、このダウンロードしたファイルで元の `gnome-panel.mo` を置き換えます。次の手順を実行します。

1. <http://dlc.sun.com/osol/jds/downloads/current/> から `l10nmessages-vermillion_*.tar` をダウンロードします。
2. 元の `gnome-panel.mo` ファイルを `SUNWgnome-l10nmessages-zhCN/reloc/share/locale/zh/LC_MESSAGES/gnome-panel.mo` で置き換えます。

その後、メッセージは英語になります。

## x86: RTC の起動後にシグナル 11 SIGSEGV が終了する (6584707)

Developer 9/07 リリースでは実行時検査 (RTC) が失敗します。RTC はメモリアクセス命令を計測することによって、アクセスが正しく行われるかを検査します。これらの命令は、実行時に SIGSEGV ハンドラで処理されます。RTC には独自の SIGSEGV ハンドラと代替シグナルスタックが必要なので、SIGSEGV ハンドラや `sigaltstack` をイ

インストールしようとする、無視されるか EINTR エラーになります。SIGSEGV ハンドラの呼び出しを入れ子にすることはできません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
terminating signal 11 SIGSEGV
```

回避方法: `rtc skippatch` コマンドを使用して、該当する関数の計測を行わないようにします。

たとえば、次の `dbx` コマンドを使用すると、入れ子の `segv` の問題が回避されます。

```
rtc skippatch libc.so -f lrw_rdlock lrw_unlock lrw_wrlock _lock_try
rtc skippatch libc.so -f read_lock_try read_unlock_try write_lock_try
write_unlock_try
rtc skippatch libc.so -f queue_unlink mqueue_spawner thread_queue_dump
rtc skippatch libc.so -f thread_queue_fifo thread_queue_spin
thread_queue_verify
rtc skippatch libc.so -f __rw_unlock __rw_trywrlock __rw_workerscnt
rtc skippatch libc.so -f __rwlock_destroy __rwlock_init
```

## x86: 一部のマシンで入出力資源に関する不要な警告が発生する (6573171)

Sun V40z などの一部のマシンと Acer Ferrari 5000 などのラップトップで、入出力資源のブートに関する警告メッセージが表示されることがあります。これらの警告は、警告メッセージに表示されているスロットでホットプラグ可能な追加操作を行うと障害が発生する可能性があることを示しています。

ただし、一部のマシンでは、表示されたスロットでホットプラグ機能がサポートされていない場合、これらの警告は不正確であり無効です。ホットプラグ機能がサポートされていない場合、これらの警告は無視してください。

ホットプラグ機能がサポートされている場合、これらの警告は有効であり、表示されたブリッジスロットでホットプラグ可能な操作を行うと障害が発生することがあります。このような種類の障害は、システムの現在の状態や機能にどのような影響も与えません。

表示される各種の警告メッセージを次の例に示します。

■

```
WARNING: out of I/O resources on bridge:
bus 0x20, dev 0x3, func 0x0, for secondary bus 0x23
```

```
WARNING: devices under bridge bus 0x20, dev 0x3,
func 0x0 will not be assigned I/O ports
```

■

```
WARNING: detected unsupported configuration:
non-empty bridge (bus 0x0 dev 0x7 func 0x0)
without I/O resources assigned by bios for secondary bus 0x7
```

■

```
WARNING: devices under bus 0x0, dev 0x7,
func 0x0 will not be assigned I/O ports
```

回避方法:ありません。

## **x86: ディスクサイズの間違いによって libspmistore.so の呼び出しで障害が発生する (6570738)**

fdisk で報告されるサイズが間違っています。この間違いのため、最後のパーティションがドライブの制限を超えているように見えます。インストールが失敗するか、デフォルトでディスク全体が使用されることがあります。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Installation can not create Solaris fdisk partition (c1t0d0p0),
causing installation failure.
Or, invalid fdisk partition causes installation to overwrite the entire disk.
```

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- gparted または類似のツールを使用して最後のパーティションのサイズを変更し、fdisk で報告されたドライブサイズの制限内に収めます。この変更を行うと、インストールを完了できるようになります。
- リカバリパーティションを備えた Windows Vista システムでは、NTFS が使用されます。この場合は、Vista のディスクパーティション分割ツールを使用して、ディスクの最後のパーティションを縮小します。Vista の縮小機能を使用すると、

パーティションサイズがドライブサイズの制限内に確実に収まります。最後のパーティションを約 1M バイト縮小すると、インストールを完了できるようになります。

## x86: gnome—about エラーメッセージ (6561499)

インストール後に、次のエラーメッセージが表示されます。

```
application gnome-about has crashed.
```

このエラーメッセージは無視してかまいません。

回避方法: ありません。

## 中国語ロケールでのログイン時にメニュー項目が英語で表示される (6555226)

中国語ロケールでログインすると、メニュー項目の一部と GNOME オンスクリーンキーボード (GOK) の UI 項目の多くが英語で表示されます。「All Applications」のメニュー項目は英語で表示されます。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- zh ロケールの代わりに zh\_CN.xxx ロケールを選択します。
- /usr/dt/config/Xinitrc.jds ファイルを次のように変更します。
  1. ファイル内で次のコードを見つけます。

```
export G_FILENAME_ENCODING=@locale,UTF-8
export G_BROKEN_FILENAMES=yes (2)
```

2. 手順 1 で見つけたコードの前に次のコードを挿入します。

```
if [ "x$LANG" = "xzh" ] ;
then
export LANGUAGE=zh:zh_CN.EUC
fi
```

3. ファイルを保存し、システムに再度ログインします。

## 512M バイトのインストールオプション (6512362)

Solaris Express Developer Edition を GUI インストーラでインストールするには、512M バイトのメモリーでは不十分です。Developer リリースをインストールするには、少なくとも 768M バイトのメモリーが必要です。

回避方法: 次のいずれかを選択してください。

- **x86 システム:** GRUB メニューで、「Solaris Express Serial Console ttyb」インストールオプション (#4) を選択します。このオプションでは、512M バイトのメモリーで動作するテキストベースのインストールが行われます。このインストールではオペレーティングシステムだけがインストールされ、開発ツールは含まれません。開発ツールはインストールのあとで追加できます。
- **SPARC システム:** 次のインストールコマンドを使用します。

```
ok boot cdrom - text
```

このオプションでも、512M バイトのメモリーで動作するテキストベースのインストールが行われます。このインストールではオペレーティングシステムだけがインストールされ、開発ツールは含まれません。開発ツールはインストールのあとで追加できます。

これらのインストールオプションの詳細については、『Solaris Express インストールガイド (基本編)』を参照してください。

## C/POSIX 以外のロケールでは、ヘルプドキュメントにトピックが 2 件しかない (6412835)

Solaris OS にログインして「起動」メニューから「ヘルプ」を選択すると、ウィンドウが開き、その左側に 12 件のトピックが表示されます。C/POSIX 以外のロケールでは、トピックが 12 件ではなく 2 件だけ表示されます。表示されるトピックは次のとおりです。

- マニュアルページ
- GNU 情報ページ

エラーメッセージは表示されません。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを使用します。

```
- scrollkeeper-update -q  
- cp -rf /var/lib/scrollkeeper/C /var/lib/scrollkeeper/xx_yy.zzz
```

**xx\_yy.zzz** は、ログインしているロケールの名前です。



## x86: Sun Studio Express June 2007 と NetBeans のデフォルトブラウザが見つからない (6512279)

はじめてユーザーとしてログインしたときに表示される「Developer Guide」HTML ページには、Sun Studio 12 および NetBeans 5.5 アプリケーションに含まれている『Getting Started』マニュアルに関する説明が表示されます。このマニュアルは、これらの製品の学習に役立ちます。この HTML ページの右側には、次のようなテキストが表示されます。

- Launch Sun Studio Express and follow the *Getting Started Tutorial* within the IDE
- Launch NetBeans 5.5 and select the *Getting Started* within the IDE

上記の指示には2つの問題があります。問題と回避方法は次のとおりです。

- Sun Studio のマニュアルの名前は、『Getting Started Tutorial』ではなく、正しくは『Quick Start Guide』です。これは「ヘルプ」メニューの下にあります。この問題には回避方法は必要ありません。
- Sun Studio と NetBeans の IDE は、Mozilla が `/usr/dist/exe/` に置かれていることを前提としています。Solaris Express Developer Edition には、Mozilla ではなく Firefox ブラウザが含まれています。『Getting Started』マニュアルやインターネット上のドキュメントにアクセスするには、Sun Studio と Netbeans の両方で、使用するブラウザとして Firefox を指定する必要があります。

回避方法: ブラウザとして Firefox を選択するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーションのメニューバーで「Tools」メニュー項目をクリックし、「Options」を選択します。
2. 「Options」というタイトルを持つダイアログボックスが表示されます。「General」セクションで、次の行を検索します。

\*Web Browser\*: Mozilla

「Mozilla」と表示されているボックスの右側にある矢印をクリックし、「Firefox」を選択します。

3. 「OK」をクリックします。

アプリケーション内から『Getting Started』マニュアルまたは任意のインターネットリンクを選択して、Firefox ブラウザが使用されるかどうかをテストします。

---

注- 『Getting Started』 マニュアルまたはほかのリンクを選択したときに、まだ Mozilla がブラウザとして設定されている場合は、この問題を修正するために必要な作業を示すダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスに示される手順ではなく、必ず上記の手順を使用してください。

---

## Developer 9/07 リリースで uid\_t と gid\_t の型に加えられた変更

ほかのオペレーティングシステムとの互換性を向上させるために、uid\_t と gid\_t の型が変更され、long (32 ビットのバイナリ) と int (64 ビットのバイナリ) から、uint32\_t 型になりました。この機能の詳細については、『Solaris Express Developer Edition の概要』の「uid\_t 型および gid\_t 型の変更」を参照してください。

これらの変更の影響は次のとおりです。

### 新しくコンパイルされる C バイナリに対する影響

コードを再コンパイルするとき、標準の開発手順では、uid\_t および gid\_t の型の変更によって発生する問題が検出されるはずですが、

留意すべき問題の分野には次のようなものがあります。

```
1 #include <unistd.h>
2 #include <stdlib.h>
3 #include <stdio.h>
4
5 int
6 main(void)
7 {
8     uid_t negone = -1;
9
10    if (getuid() < 0)
11        exit(1);
12
13    (void) setreuid(negone, getuid());
14
15    (void) printf("%ld\n", getuid());
16
17    return (0);
18 }
```

- Sun の Studio 11 コンパイラでは、次の警告が生成されます。

```
"uid.c", line 8: warning: initializer does not fit or is out of range: -1"
```

- Studio 11 の lint では、次の警告が生成されます。

```
(8) warning: constant truncated by assignment
```

```
(8) warning: initializer will be sign-extended: -1
```

```
(10) warning: suspicious comparison of unsigned with 0: op "<"
```

```
function argument ( number ) type inconsistent with format
```

- gcc -Wall -Wextra では、次の警告が生成されます。

```
uid.c:10: warning: comparison of unsigned expression < 0 is always false
```

```
uid.c:15: warning: long int format, uid_t arg (arg 2)
```

---

注-新しくコンパイルしたCバイナリは、古いオブジェクトおよびシステムオブジェクトと混在させることができます。型のサイズは変更されていません。

---

## C++ コードに対する影響

`uid_t` と `gid_t` の型の変更により、C++ の関数とオブジェクトに対する名前の符号化に変更が発生します。

Cバイナリと同様に、C++ のバイナリおよびライブラリもこれまでどおり機能し続けます。ただし、ライブラリに、`uid_t` および `gid_t` を使用するインタフェースが含まれている場合は例外です。この場合は、このようなインタフェースを含んでいるライブラリと、このようなインタフェースを使用するアプリケーションを、同時に再コンパイルする必要があります。

Solaris OS ではこのような C++ インタフェースは公開されていないので、通常、Solaris ライブラリとの互換性が失われることはありません。

## Solaris Express Developer Edition 5/07 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Developer 5/07 リリースに関連するものです。

### 支援技術を使用すると閲覧中に Firefox がクラッシュする (6566708)

Orca とともに使用すると Firefox がクラッシュすることがあります。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: 支援技術を無効にします。

## アップグレード後に inetd で警告が表示される (6557608)

Developer 5/07 リリースにアップグレードしたあと、inetd コマンドで次の2つの警告が表示されます。

```
inetd[685]: Failed to update state of instance
svc:/network/tname:default in repository: entity not found
```

および

```
inetd[685]: Failed to update state of instance
svc:/network/tname:default in repository: No such file or directory
```

回避方法: これら2つの警告は、アップグレード後の初回ブート時にのみ表示されます。これらの警告は無害なもので、無視しても問題ありません。

## x86: 最小ファイルシステムサイズでのインストール後にルート (/) ファイルシステムがいっぱい (100%) になる (6557276)

次の手順をすべて実行した場合は、ルート (/) ファイルシステムがいっぱい (100%) になることがあります。

1. デフォルトのファイルシステムレイアウトを変更するように選択する。
2. ファイルシステムをルート (/)、/var、/opt、および /usr に分割する。
3. インストーラで提示された最小ファイルシステムサイズをそのまま使用する。

システムがリブートできなくなり、次のメッセージが表示されることがあります。

```
notice: realloccg: / file system full
```

回避方法: ファイルシステムを分割する場合は、ルート (/) ファイルシステムの最小サイズの 25 ~ 50 % を追加します。

## GNOME キーリングがクラッシュする (6552688)

空白のキーリング名やアイテム名の妥当性検査を試みると、GNOME キーリングがクラッシュします。これにより、コアダンプも生成されます。

次のエラーメッセージが表示されます。

```
Segmentation Fault (core dumped)
```

回避方法:ありません。

## SPARC: (ZFS) ARC がカーネルページ内にメモリーを割り当てるため、DR が実行できない (6522017)

ZFS では、大規模なメモリー構成を備えたシステムのすべてのシステムボードにわたって、カーネルメモリーを割り当てることができます。ボードの動的再構成を行うには、そのボードのメモリーをコピーするために、未使用のシステムボードが 1 つ必要です。ZFS が稼働している大規模なメモリー構成のシステムでは、メモリーを動的に再構成することはできません。SunFire™ ハイエンドサーバーでは、この問題を回避するためにカーネルページを再配置できます。これらのサーバーでは、32 を超えるコアを持つドメインに対してカーネルページ再配置 (KPR) が有効になっている必要があります。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: /etc/system ファイルで `zfs_arc_max` パラメータを設定して、ZFS で割り当て可能なカーネルメモリーの量を減らします。次の例では、最大サイズが 512M バイトに設定されます。

```
set zfs_arc_max = 0x20000000
```

## 一部のキー配列が正しくインストールされない (6518611)

インストール時に「Configure Keyboard Layout」画面で選択したキー配列の一部が正しくインストールされません。キー配列は「US-English」のままになります。あとでユーザーが入力方式スイッチ (iiim-panel) を使用して Java DS のキー配列を切り替えるときに、このエラーが原因で問題が発生することがあります。該当するキー配列は次のとおりです。

アルバニア語、ベラルーシ語、ブルガリア語、クロアチア語、チェコ語、フランス語系カナダ、ハンガリー語、ギリシャ語、ラテンアメリカ言語、リトアニア語、ラトビア語、マケドニア語、マルタ UK、マルタ US、ポーランド語、ロシア語、セルビア・モンテネグロ、スロベニア語、およびスロバキア語。

エラーメッセージは表示されません。

回避方法: インストール時に「US-English」キー配列を選択します。インストール後に、キーボード設定を変更します。インストール後にキー配列を切り替えるには、入力方式スイッチ (iiim-panel) または `kbd -s` コマンド行ユーティリティを使用します。

## strftime(3c) は %-m と %-d で GNU 拡張をサポートすべき (6448815)

Java DS メニューバーおよび Evolution などの一部のアプリケーションで、中国暦の日付が正しく表示されません。不正な日付は %-m M %-d D の形式で表示されます。この M と D は、それぞれ中国暦の月と日です。

回避方法: 次の手順を実行します。

1. /usr/share/locale/LC\_MESSAGES/gnome-panel\*.mo ファイルをバックアップします。
2. gnome-panel.gnome-2-16.zh\_CN.po を [http://l10n.gnome.org/POT/gnome-panel.gnome-2-16/gnome-panel.gnome-2-16.zh\\_CN.po](http://l10n.gnome.org/POT/gnome-panel.gnome-2-16/gnome-panel.gnome-2-16.zh_CN.po) からダウンロードし、/tmp ディレクトリに保存します。
3. gnome-panel.gnome-2-16.zh\_CN.po ファイルを編集して、すべての %-m を %0m で置き換え、%-d を %e で置き換えます。
4. 新しい gnome-panel.gnome-2-16.zh\_CN.po ファイルを生成します。

```
msgfmt -v -o gnome-panel.gnome-2-16.zh_CN.mo /tmp/gnome-panel.gnome-2-16.zh_CN.po
```

このファイルを /usr/share/locale/LC\_MESSAGES/ ディレクトリにコピーします。

5. システムからログアウトし、再度ログインします。

## Apache Tomcat のシャットダウンに関する注意事項

Apache Tomcat 5.5 をシャットダウンする際に、必要な権限が不足しているため例外が発生します。この問題は、システムをシャットダウンするユーザーが root ユーザーでないか、「other」グループに属している場合に発生します。その場合は、Tomcat のインストール時に、すべてのファイルがこれを認識するように設定されます。

回避方法: Tomcat を起動する前に、Tomcat ディレクトリのファイルのアクセス権を次のように変更します。

```
% su root
Password:
# DIR=/opt/netbeans-5.5/enterprise3/apache-tomcat-5.5.17
# find ${DIR} -perm -100 -exec chmod ugo+x {} \;
# find ${DIR} -perm -200 -exec chmod ugo+w {} \;
# find ${DIR} -perm -400 -exec chmod ugo+r {} \;
# exit
%
```

## 日本語版マニュアルページが英語版と同期されていないことがある

日本語版マニュアルページの内容は、最新の英語版マニュアルページと同期されていません。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: 最新の内容を確認するには、英語版マニュアルページを参照します。

```
% env LC_MESSAGES=C man <manpage>
```

## Solaris Express Developer Edition 2/07 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Developer 2/07 リリースに関連するものです。

### Solaris OS のインストール後、Linux パーティションが GRUB メニューに表示されない (6508647)

ディスクに Linux がインストールされている場合、別のパーティションに Solaris OS をインストールすると、Linux パーティションは GRUB メニューに表示されません。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: GRUB メニューの `menu.lst` ファイルを編集して、Linux を GRUB メニューに追加します。次の手順を実行します。

1. Solaris OS をブートします。
2. `/boot/grub/menu.lst` にある `menu.lst` ファイルを編集します。詳細は、『System Administration Guide: Basic Administration』を参照してください。

### Solaris OS のインストール時に Linux パーティションが認識されない (6507774)

Solaris OS をインストールする際、インストーラではディスク全体へのインストールが有効になりますが、ユーザーが作成した Solaris パーティションにはインストールできません。この問題は、次の状況で発生します。

- Solaris 対話式インストール GUI (グラフィカルユーザーインターフェース) を使用してインストールする
- システムに Linux および Linux スワップパーティションがインストールされている

- インストーラを実行する前に、Solaris用のデュアルブートパーティションを作成した

次のエラーメッセージが表示されます。

```
WARNING: The initial fdisk information found on disk<disk> was invalid.  
Defaulting the entire disk to a Solaris partition.
```

回避方法: Linux スワップパーティションのパーティションIDを変更します。次の手順を実行します。

1. インストーラを終了します。
2. 端末ウィンドウを開きます。
3. 現在の fdisk パーティションテーブルを一時ファイルにコピーします。

```
# fdisk -W /tmp/partfile /dev/rdisk/<disk>p0
```

4. /tmp/partfile を vi エディタで開きます。
5. Linux スワップパーティションの ID を 130 から 132 に変更します。
6. 編集したファイルを fdisk パーティションテーブルに書き込みます。

```
# fdisk -F /tmp/partfile /dev/rdisk/<disk>p0
```

7. インストーラを再度起動します。

```
# install-solaris
```

8. Solaris のインストールが完了したら、システムをリブートします。
9. 手順4から手順7までを実行して、Linux スワップパーティションのパーティションIDを変更して130に戻します。

## sdで、fdiskパーティション分割されたディスクがEFIパーティション分割されたディスクとして扱われる (6355349)

ディスクのパーティションをEFIまたはGPT以外の形式に再分割した場合、GPTバックアップヘッダーがディスクに残っていると、そのディスクはSolaris OSでEFIまたはGPTラベル付きディスクとして扱われることがあります。このエラーが発生するのは、EFIまたはGPTラベル付きディスクのパーティションを以前のリリースのSolarisで再分割した場合か、EFIやGPTに対応していないユーティリティーを使用して再分割した場合のみです。GPTバックアップが使用されている場合は、次の警告が表示されます。

```
primary label corrupt; using backup
```



回避方法 1: ディスクのパーティションを再分割する前に、ディスク全体を消去します。

```
dd if=/dev/zero of=/dev/rdisk/c1t3d0
```

回避方法 2: ディスクの最後のブロックにある GPT バックアップヘッダーを消去します。次の手順を実行します。

1. ディスクに対して `format` コマンドを実行し、`verify` オプションを指定します。セクターの値を書き留めます。

```
#echo "verify" | format /dev/rdisk/c1t3d0 | grep "^sectors"
Reading the primary EFI GPT label failed. Using backup label.
Use the 'backup' command to restore the primary label.
sectors = 143374743
```

2. (省略可能) 指定されたブロックの内容をコピーします。

```
dd if=/dev/rdisk/c1t3d0 of=/var/tmp/lastblock iseek=143374743
```

3. 指定されたブロックを消去します。

```
dd if=/dev/zero of=/dev/rdisk/c1t3d0 oseek=143374743
```

## Solaris OS のインストール時に Solaris パーティションが認識されない (6346759)

インストーラで Solaris OS をインストールする際、ユーザーが作成した Solaris パーティションに OS がインストールされません。代わりに、インストーラは OS を Linux スワップパーティションにインストールしようとします。この問題は、次の状況で発生します。

- テキストモードの Solaris 対話式インストールを使用してインストールする。
- システムに Linux および Linux スワップパーティションがインストールされている。
- インストーラを実行する前に、Solaris 用の別のパーティションを作成した。

エラーメッセージは表示されません。

回避方法: Linux スワップパーティションのパーティション ID を変更します。次の手順を実行します。

1. インストーラを終了します。
2. 端末ウィンドウを開きます。
3. 現在の `fdisk` パーティションテーブルを一時ファイルにコピーします。

```
# fdisk -W /tmp/partfile /dev/rdisk/<disk>p0
```

4. /tmp/partfile を vi エディタで開きます。
5. Linux スワップパーティションの ID を 130 から 132 に変更します。
6. 編集したファイルを fdisk パーティションテーブルに書き込みます。

```
# fdisk -F /tmp/partfile /dev/rdisk/<disk>p0
```

7. インストーラを再度起動します。

```
# install-solaris
```

8. Solaris のインストールが完了したら、システムをリブートします。
9. 手順 4 から手順 7 までを実行して、Linux スワップパーティションのパーティション ID を変更して 130 に戻します。

## デフォルトで **Developer** リリースがインストールされる

Developer 2/07 リリースには開発ツールセットが含まれており、クイックインストールプロセスが使用されます。

回避方法: 以前はデフォルトで Solaris Express リリースがインストールされていました。Solaris Express リリースには、開発者ツールセットは含まれていません。ただし、Solaris Express リリースでは、インストール時にユーザーがシステム構成をカスタマイズできます。Solaris Express リリースをインストールするには、最初のインストール画面でそのリリースを選択する必要があります。

## 拡張パーティションが保持される

拡張パーティション上に別の OS がある場合、その既存の拡張パーティションは、Solaris Developer リリースのインストール中に変更されたり失われたりすることはありません。Developer リリースのインストール中、既存の拡張パーティションは不可視ですが、拡張パーティションが格納された一次 fdisk パーティションは可視です。これらのパーティション内のデータがインストールのために失われることはありません。拡張パーティション上の OS は、GRUB メニュー上に表示されません。GRUB メニューに別の OS を追加する手順については、『System Administration Guide: Basic Administration』の「Introduction to GRUB Based Booting」を参照してください。

回避方法: ありません。

## Solaris Express 11/06 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Solaris Express 11/06 リリースに関連するものです。

### ゾーンに対応していないシステムでは、`patchadd` の `-R` オプションを使用して代替ルートパスを指定することは制限すべき **(6464969)**

ゾーンに対応していない Solaris リリースを実行しているシステムでは、`patchadd -R` コマンドなどの `-R` オプションを受け入れるコマンドを使用して、非大域ゾーンがインストールされている大域ゾーンに代替ルートパスを指定しても、正常に機能しません。

`luupgrade [-t, -T, -p, -P]` コマンドを使用した場合に表示されるエラーメッセージとは異なり、この場合は、コマンドレベルでの妥当な制限の使用に関するエラーメッセージは表示されません。

`-R` オプションが機能しなかったことを示すものは何もありません。このコマンドが失敗した結果として、インストールされているどの非大域ゾーンにも Solaris Express のパッケージやパッチはインストールされません。

この問題は、パッケージやパッチをインストールまたはアンインストールするときが発生します。

---

注-代替ブート環境に非大域ゾーンが構成されていても、非大域ゾーンがインストール済みでない場合には、`-R` オプションが機能します。ただし、潜在的な問題を回避するには、あるいは、代替ルートパスとして使用される非大域ゾーンがインストールされているかどうか分からない場合は、常に `-R` オプションの使用を制限してください。

---

詳細は、次のマニュアルページを参照してください。

- `patchadd(1M)`
- `patchrm(1M)`
- `pkgadd(1M)`
- `pkgrm(1M)`

回避方法 1: OS を Solaris Express 12/05 リリース以上にアップグレードします。

回避方法 2: `patchadd -R` コマンドなど、代替ルートパスを作成するための `-R` オプションを受け入れるすべてのコマンドの使用を制限します。

代わりに、代替ルート (Solaris Express リリースなど) をアクティブ OS としてブートします。

## Solaris Express 10/06 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Solaris Express 10/06 リリースに関連するものです。

### JumpStart でキーボード構成が有効でなければならない

Solaris Express 10/06 リリースで新しく導入された `sysidkdb` ツールは、インストール時に USB キー配列を構成します。この新しいツールでは、有効なキー配列文字列が定義されています。Unknown は有効な文字列ではありません。したがって、SPARC システムで JumpStart インストールを実行する際、`sysidcfg` スクリプトに含まれている `keyboard=Unknown` は無効です。

次のエラーメッセージが表示されます。

```
keyboard=Unknown
Unknown is not a valid keyboard layout
```

回避方法: `sysidcfg` スクリプトから `Keyboard=Unknown` という行を削除します。または、Unknown を有効なキーボード文字列で置き換えます。新しい `sysidkdb` ツールと有効なキーボードオプションの詳細については、`sysidcfg(4)` のマニュアルページを参照してください。

SPARC システムでシリアルキーボードを使用する場合は、SPARC システムの `sysidcfg` スクリプト内でキーボード変数を省略します。

有効なキーボード文字列が `sysidcfg` スクリプトに指定されていない場合は、インストール時にキーボードの選択を求められます。

## Solaris Express 7/06 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Solaris Express 7/06 リリースに関連するものです。

### インストール結果の変更

このリリースでは、新しいセキュリティー機能のため、インストールの結果が大幅に異なります。ssh 以外のネットワークサービスはすべて無効にされるか、ローカルの要求だけに応答するよう制限されます。

サービスを有効にする方法については、『「Solaris Express Developer Edition の概要」』の『「ネットワークサービスの起動」』を参照してください。

## Solaris Express 6/06 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Solaris Express 6/06 リリースに関連するものです。

### Solaris Express 4/06 リリースより前の Solaris OS に戻すと、システムで Solaris ボリュームマネージャーが起動しない

システムで次の手順を実行すると、Solaris ボリュームマネージャーの起動に問題が発生します。

1. Solaris ボリュームマネージャーによる記述名のサポートが含まれている、Solaris Express 4/06 OS またはそれ以降のリリースにアップグレードする。
2. Solaris ボリュームマネージャーによって記述名が自動的に設定される、ボリュームとホットスワップールを作成する。
3. これらのコンポーネントを削除せずに、現在システムにインストールされている Solaris OS を、Solaris Express 4/06 リリースより前の Solaris OS に戻す。

以前の Solaris OS に含まれている Solaris ボリュームマネージャーでは、記述名を持つコンポーネントは認識されません。その結果、以前の Solaris リリースに戻した場合は、Solaris ボリュームマネージャーが起動しません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
svc:/system/mdmonitor:default: Method "/lib/svc/method/svc-mdmonitor"
failed with exit status 1.
  system/mdmonitor:default failed
```

システムパニックも発生し、次のようなメッセージが表示されます。

```
Cannot open mirrored root device, error 19
Cannot remount root on /pseudo/md@0:0,10,blk fstype ufs

panic[cpu0]/thread=180e000: vfs_mountroot: cannot remount root

000000000180b950 genunix:vfs_mountroot+344 (18831f0, 2021, 18831f0, 18621a8,
18362c0, 185d760)
  %l0-3: 00000000018362c0 000000000185d400 000000000183b400 00000000011e6400
  %l4-7: 0000000000000001 000000000008025 000000000185d518 00000000018831f0
000000000180ba10 genunix:main+98 (18141a0, 1013400, 18362c0, 18aa000,
180e000, 1814000)
  %l0-3: 00000000070002000 0000000000000001 000000000180c000 000000000180e000
  %l4-7: 0000000000000001 0000000001074400 0000000000000060 0000000000000000
```

回避方法: OS のアップグレード後に作成された Solaris ボリュームマネージャーのコンポーネントは、すべて記述名を使用します。以前の OS に戻す場合は、その前にこれらのコンポーネントを削除します。次の手順を実行します。

1. スーパーユーザーになります。
2. `metastat -D` コマンドを使用して、記述名を使用するメタデバイスとホットスペアプールの一覧を表示します。

そのようなコンポーネントの完全なリストを取得するには、ローカルおよび名前付きのメタセットごとに、このコマンドを個別に実行する必要があります。

`metastat` コマンドの詳細は、`metastat(1M)` のマニュアルページを参照してください。

- a. ローカルのメタセットに対して `metastat -D` コマンドを実行します。次のような出力が生成されます。

```
# metastat -D
d21: Concat/Stripe
  Size: 208278 blocks (101 MB)
  Stripe 0:
    Device      Start Block  Dbase  Reloc
    c1t1d0s1          0     No     Yes

swimming: 1 hot spare
  Device      Status      Length      Reloc
  c1t2d0s1  Available  208278 blocks  Yes
```

- b. 名前付きメタセットに対して `metastat -D` コマンドを実行します。次のような出力が生成されます。

```
# metastat -s named -D
named/alley: Concat/Stripe
  Size: 208278 blocks (101 MB)
  Stripe 0:
    Device      Start Block  Dbase  Reloc
    c1t3d0s1          0     No     Yes
```

3. `metaclear` コマンドを使用して、記述名を使用するこれらのコンポーネントを削除します。ローカルおよび名前付きのメタセットごとに、このコマンドを個別に実行する必要があります。

- a. ローカルセットから、コンポーネント `d21` とホットスペアプール `swimming` を削除します。

```
# metaclear d21
d21: Concat/Stripe is cleared
# metahs -d swimming c1t2d0s1
swimming: Hotspare is deleted
# metahs -d swimming
swimming: Hotspare pool is cleared
```

- b. 名前付きメタセットから、コンポーネント `alley` を削除します。

```
# metaclear -s named alley
named/alley: Concat/Stripe is cleared
```

4. 以前の Solaris OS に戻す作業に進みます。

## smosservice add コマンドは指定された ARCH=all パッケージをインストールしない (4871256)

`smosservice add` コマンドは、`root (/)` または `/usr` ファイルシステムで `ARCH=all` が指定されたパッケージをインストールしません。これらのパッケージがスキップされたことを示すエラーメッセージは表示されません。この動作は、Solaris 2.1 OS 以降で発生します。この動作は、SPARC および x86 の両方のクライアントで発生します。

不足しているパッケージの一覧は、実行中の Solaris リリースによって異なります。

回避方法:

不足している `ARCH=all` パッケージを検出し、インストールします。

不足しているパッケージの確認およびインストールに関する段階的な手順については、『System Administration Guide: Basic Administration』の「How to Locate and Install Missing ARCH=all Packages」を参照してください。

## Solaris Express 4/06 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Solaris Express 4/06 リリースに関連するものです。

## Solaris Express 3/06 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Solaris Express 3/06 リリースに関連するものです。

### x86: Solaris Express 3/06 OS へのアップグレード時にアップグレードオプションを使用できない (6386504)

OS を Solaris Express 3/06 OS にアップグレードする場合、アップグレード操作は次のように失敗します。

- Solaris インストールプログラムの場合、アップグレードオプションを選択できません。

- カスタム JumpStart プログラムの場合、アップグレードに失敗します。

この問題は、削除が必要な未使用のブートパーティションが原因で発生します。この問題は、次の状況で発生します。

- Solaris 8、Solaris 9、または Solaris 10 3/05 リリースから初期インストールを実行した場合。インストール中に x86 ブートパーティションが作成された。
- GRUB をサポートする Solaris 10 1/06 リリースまたは Solaris Express リリースから初期インストールを実行した場合。x86 ブートパーティションは維持されているが、使用されていない。
- Solaris Express 3/06 OS へのアップグレードを試行した場合。

次のエラーが /tmp/install\_log に書き込まれます。

```
# more /tmp/install_log
kdmconfig: The following warning was noted:
Error while executing loadkeys command.
Checking c1d0s0 for an upgradeable Solaris image.
The x86 Boot fdisk partition is missing /a/boot/solaris/bootenv.rc
```

回避方法:

- Solaris インストールプログラムを使用してアップグレードする場合は、`format` または `fdisk` コマンドを使用して未使用のブートパーティションを削除します。アップグレードする前に再度パーティションを分割します。
- JumpStart を使用してアップグレードする場合は、`root_device` キーワードを使用してアップグレードされるようにルート (/) ファイルシステムを含むディスクを指定します。たとえば、プロファイルには次のキーワードが含まれます。
  - `install_type upgrade`
  - `root_device c1t0d0s0`

## Solaris Express 1/06 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Solaris Express 1/06 リリースに関連するものです。

### **x86: インストール後に Sun Java Desktop System のグラフィックスが破壊されることがある (6358446)**

Solaris Express 1/06 ソフトウェアを次の方法でインストールすると、Java DS のグラフィックスが破壊されることがあります。



- DVD メディアまたはネットワーク上の DVD イメージを使用してソフトウェアをインストールする。
- Xorg X サーバーを使用するようにシステムを構成する。

このエラーは、Millennium G450、AGP、DualHead カード、Millennium G400 カードなどの特定の Matrox グラフィックスカードを使用しているシステムで発生します。

エラーメッセージは表示されません。ただし、すべての GNOME アプリケーションで次の症状が見られることもあります。

- アイコンおよびウィンドウタイトルに、割り当てられていない色が表示される。
- ボタンが重なり合う。
- アイコンの位置が安定しない。

回避方法: ありません。

## Solaris Express 12/05 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Solaris Express 12/05 リリースに関連するものです。

### x86: ビデオカードが 1 枚しかないシステムで全画面の拡大鏡を設定できない

ビデオカードを 1 枚しか使用していない Solaris 10 システムでは、全画面の拡大鏡を設定することはできません。このような構成の場合には、ダミードライバの設定を定義した別の構成ファイルを使用する必要があります。最初に、Xserver が動作していないことを確認します。そのあとに、次の手順を実行してください。

1. コマンド行セッションにログインします。
  - GNOME ディスプレイマネージャーを使用する場合は、次の手順を実行します。
    - a. スーパーユーザーとしてセッションにログインします。
    - b. プロンプトで、`svcadm disable application/gdm2-login` と入力します。
    - c. 再度スーパーユーザーとしてログインします。
  - dtlogin を使用する場合は、次の手順を実行します。
    - a. dtlogin ウィンドウで、「オプション」をクリックし、「コマンド行ログイン」を選択します。
    - b. スーパーユーザーとしてログインします。
2. 新しい `xorg.conf` ファイルを作成します。

```
# /usr/X11/bin/Xorg -configure
```

ルート (/) ディレクトリに `xorg.conf.new` が作成されます。

3. 新しい構成ファイルを `/etc/x11` ディレクトリにコピーし、ファイルの名前を `xorg.conf` に変更します。

```
# cp /xorg.conf.new /etc/X11/xorg.conf
```

4. 次のサンプル構成を使用して、ファイルの構成を変更します。

- 新しいモニターセクションを追加します。

```
Section "Monitor"
    Identifier   "monitor_dummy"
    ModelName    "dummy"
    HorizSync    10-200
    VertRefresh  20-90
EndSection
```

- 新しいデバイスセクションを追加します。

```
Section "Device"
    BoardName    "dummy"
    Driver        "dummy"
    Identifier    "device_dummy"
    VendorName    "dummy"
    videoram     10000
EndSection
```

---

注-グラフィックスカードの画面の幅と高さ、および発色数に応じて、`videoram` 値の調整が必要になる場合があります。値 (K バイト) は、使用する画面に適した大きさにする必要があります。たとえば、幅 \* 高さ \* bpp/8 という式を使用して値を計算します。

---

- 新しい画面セクションを追加します。

```
Section "Screen"
    DefaultDepth 24
    SubSection "Display"
        Depth     24
        Modes      "1280x1024"
    EndSubSection
    Device        "device_dummy"
    Identifier    "screen_dummy"
    Monitor       "monitor_dummy"
EndSection
```

解像度の値は、システムの設定に応じて調整が必要になる場合があります。

5. `ServerLayout` セクションで次の行を探します。

```
Screen 0 "Screen0" 0 0
```

- この行の下に、次の行を挿入します。

```
Screen 1 "screen_dummy" RightOf "Screen0"
```

この追加した行により、Screen1 が定義されます。2 番目のダミー画面として、物理的な主画面である Screen0 の論理的に右側に割り当てられます。

- 変更を保存します。
- コマンド行セッションからシステムをリブートします。
  - GDM を使用する場合は、次の操作を実行します。
    - svcadm enable application/gdm2-login** と入力します。
    - システムをリブートします。
  - dtlogin を使用する場合は、システムをリブートし、ログインします。
- Gnopernicus スクリーンリーダーを起動します。
- 「起動モード」を「拡大鏡」に変更します。
- 「設定」をクリックしてから、「拡大鏡」を選択します。
- 「追加/変更」をクリックします。
- 「拡大鏡」設定に次の値を割り当てます。
  - ソース: 0.1
  - 拡大表示の位置:
    - 左と上部: 0
    - 右と下部: 最大値
- 「適用」をクリックします。

全画面拡大の画面が上に表示され、Gnopernicus ウィンドウが表示されなくなります。この状態で、全画面拡大を設定することができます。

## x86: USB マウスデバイスを拡張デバイスとして GNOME オンスクリーンキーボードと一緒に使用するよう設定するときの問題

USB マウスデバイスを拡張デバイスとして、GOK と一緒に使用するよう設定することはできません。PS2 マウスデバイスを主ポインタとして使用しながら USB マウスデバイスを設定すると、設定に失敗します。USB マウスを適切に設定するには、次の手順を実行します。

- スーパーユーザーとしてログインします。
- USB マウスデバイスが接続されていない間に、端末ウィンドウで次のように入力します。

```
# ls -l /dev/usb/hid*
```

3. USB マウスを接続し、上記のコマンドをもう一度入力します。
4. 画面に表示される USB マウスのパスを書き留めておきます。
5. コマンド行セッションにログインします。
  - GNOME ディスプレイマネージャーを使用する場合は、次の手順を実行します。
    - a. スーパーユーザーとしてセッションにログインします。
    - b. プロンプトで、**svcadm disable application/gdm2-login** と入力します。
    - c. 再度スーパーユーザーとしてログインします。
  - dtlogin を使用する場合は、次の手順を実行します。
    - a. dtlogin ウィンドウで、「オプション」をクリックし、「コマンド行ログイン」を選択します。
    - b. スーパーユーザーとしてログインします。
6. 新しい `xorg.conf` ファイルを作成します。

```
# /usr/X11/bin/Xorg -configure
```

ルート (/) ディレクトリに `xorg.conf.new` が作成されます。

7. 新しい構成ファイルを `/etc/x11` ディレクトリにコピーし、ファイルの名前を `xorg.conf` に変更します。

```
# cp /xorg.conf.new /etc/X11/xorg.conf
```

8. このファイルの設定を変更します。
  - `ServerLayout` セクションの `InputDevice "Mouse0" "CorePointer"` 行の下に、`Mouse1` として入力デバイスを追加します。次の例を参照してください。
 

```
InputDevice "Mouse0" "CorePointer"
InputDevice "Mouse1"
```
  - `Identifier "Mouse0"` 行のある `InputDevice` セクションで、次の変更を適用します。
    - `Option "Device" "/dev/mouse"` を `Option "Device" "/dev/kdmouse"` に変更します。
    - `Option "Protocol" "auto"` を `Option "Protocol" "VUID"` に変更します。
    - 次の新しいオプションを追加します。

```
Option "StreamsModule" "vuid3ps2"
```

変更を適用したあとのセクションは、次の例のようになっているはずですが。

```

Section "InputDevice"
    Identifier "Mouse0"
    Driver     "mouse"
    Option     "Protocol" "VUID"
    Option     "Device"   "/dev/kdmouse"
    Option     "StreamsModule" "vuid3ps2"
EndSection

```

- 上記の InputDevice セクションの下に、新しい InputDevice セクションを作成します。

```

Section "InputDevice"
    Identifier "Mouse1"
    Driver     "mouse"
    Option     "Device" "/dev/usb/hid1"
EndSection

```

---

注 - /dev/usb/hid1 は、USB マウスのパスの例です。手順 4 のパスを使用して、/dev/usb/hid1 を置き換えてください。

---

9. ファイルを保存し、終了します。
10. コマンド行セッションからシステムをリブートします。
  - GDM を使用する場合は、次の操作を実行します。
    - a. **svcadm enable application/gdm2-login** と入力します。
    - b. システムをリブートします。
  - dtlogin を使用する場合は、システムをリブートします。
11. アクセス可能な UI を使用するユーザーのアカウントにログインします。
12. 「起動」メニュー => 「設定」 => 「アクセシビリティ」 => 「支援技術のサポート」の順にクリックして、支援技術のサポートを有効にします。
13. システムからログアウトしてから、アクセス可能な UI を使用するユーザーのアカウントに再度ログインします。
14. 端末ウィンドウを開き、次のコマンドを入力します。

```
% /usr/sfw/bin/gok --select-action=switch1
```

15. GOK ウィンドウで、「GOK」をクリックし、「設定」を選択します。
16. アクセス可能な UI を使用するユーザーの要件に応じて、GOK を設定します。  
GOK を設定せずに現在の設定を受け入れる場合は、「GOK の設定」ウィンドウで「適用」をクリックしてから「了解」をクリックします。
17. GOK を終了してから、「起動」メニュー => 「アプリケーション」 => 「アクセシビリティ」 => 「オンスクリーンキーボード」の順にクリックして GOK を再起動します。次の警告メッセージが表示される場合があります。

The device you are using to control GOK is also controlling the system pointer.

18. 「了解」をクリックします。
19. GOKを終了してから、手順14～17を繰り返します。  
警告メッセージは表示されなくなります。

## ゾーン用のパッチを削除したあとに pkgchk を実行すると、エラーメッセージが表示される (6267966)

patchadd コマンドと patchrm コマンドは、ファイルシステムを継承した非大域ゾーンでは適切に動作しません。この結果、次の状況のときにこれらのゾーンで pkgchk コマンドを実行すると、パッケージに関するエラーメッセージが生成されることがあります。

1. 大域ゾーンで patchadd コマンドを使用して、Solaris 10 ゾーンシステムにパッチを適用します。
2. patchrm コマンドを使用して、適用したパッチを削除します。
3. ファイルシステムを継承した非大域ゾーンで、削除したパッチに含まれるパッケージに関する情報について pkgchk コマンドを使って確認します。

上記の状況のときに、SUNWcsu に対して pkgchk コマンドを使用すると、次のようなメッセージが表示されます。

```
# pkgchk SUNWcsu
ERROR: /usr/lib/inet/certdb
  modtime <04/26/05 10:55:26 PM> expected <01/23/05 01:48:24 AM> actual
  file size <36012> expected <42152> actual
  file cksum <37098> expected <19747> actual
ERROR: /usr/lib/inet/certlocal
  modtime <04/26/05 10:55:26 PM> expected <01/23/05 01:48:24 AM> actual
  file size <44348> expected <84636> actual
```

回避方法: ありません。このエラーが発生しても問題はありません。このエラーメッセージは無視してください。

## Solaris Express 11/05 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Solaris Express 11/05 リリースに関連するものです。

### SPARC: Sun Expert3D および Sun Elite3D ハードウェアの電源管理システムが動作しない環境がある (6321362)

Sun Blade™ 1000 または Sun Blade 2000 ワークステーションの Sun Expert3D または Sun Elite3D カードは通常、アイドル期間が経過したあとに低電力モードに切り替わります。ただし、これらのカードが Xserver の主ヘッドとして設定されている場合には、電源管理システムは動作しません。関係するカードは通常電力のまま動作し、電力は節約されません。エラーメッセージは表示されません。

回避方法: ありません。

### x86: dtremote を使用すると GNOME アプリケーションが失敗する (6278039)

リモートログインして `gnome-at-properties` のアクセシビリティを有効にすると、GNOME アプリケーションは起動しません。GNOME アプリケーションを起動しようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
** ERROR **: Accessibility app error: exception during
registry activation from id:
IDL:Bonobo/GeneralError:1.0 aborting...
```

回避方法: ありません。dtremote を使用してログインするときには、アクセシビリティを有効にしないでください。アクセシビリティが無効になっているデフォルトのデスクトップ設定に戻すには、GNOME セッションを閉じます。次のコマンドを実行します。

```
% gnome-cleanup
```

## Solaris Express 6/05 に関する注意事項

次に示す注意事項は、Solaris Express 6/05 リリースに関連するものです。

### Solaris ゾーンがインストールされている場合に、Solaris Flash アーカイブを作成できない (6246943)

最新の Solaris リリースから、非大域ゾーンがインストールされているときに、Solaris Flash アーカイブを適切に作成できなくなっています。Solaris Flash 機能は、最新のリリースでは Solaris コンテナ (ゾーン) 機能との互換性を持っていません。

flar create コマンドを使用して、次の環境に Solaris Flash アーカイブを作成しないでください。

- 非大域ゾーン内
- 非大域ゾーンがインストールされている場合の大域ゾーン内

このような環境に Solaris フラッシュアーカイブを作成すると、配置したアーカイブが適切にインストールされないことがあります。

回避方法: ありません。

## 解決済みの統合されたバグ

次の表は、Solaris 10 オペレーティングシステムのリリース以降に解決された問題とバグの一覧です。

表 1-1 統合されたバグ

CR 番号	見出し	解決されたリリース
6554028	945GM ベースのビデオカードを備えた Dell Latitude D620 マシンで Xorg が失敗する	Developer 1/08
6557192	generic.xml の再リンクが原因で、無効にされた SMF サービスがオンラインになる	Developer 9/07
6557069	CDE がデフォルトのデスクトップになる	Developer 9/07
6555581	ネットワーク構成ツールが NWAM に対応していない	Developer 9/07
6554029	パラレル SCSI コントローラ LSI53C1020 および LSI53C1030 が原因でパニックが発生する	Developer 9/07



表 1-1 統合されたバグ (続き)

6553364	Netbeans の Application Server のインストールエラー	Developer 9/07
6526120	64 ビットの SPARC マシンおよび x86 マシンには Xorg サーバーの Xtsol 拡張モジュールが必要	Developer 9/07
6517484	アジア言語ロケールでユーザーが日付と時刻の設定を調整できない	Developer 9/07
6506588	Solaris GUI インストールの実行中に Xorg デスクトップでパニックが発生する	Developer 9/07
6502253	疎ルートゾーンがインストールされているシステムのアップグレード時に Firefox パッケージの一部が削除される	Developer 9/07
6466379	ゾーンで <code>svc:/system/dbus:default</code> が保守モードになる	Developer 9/07
6316245	複数の Ethernet カードが存在する場合、間違った MAC アドレスが表示される	Developer 9/07
6515667	x86 プラットフォームで Solaris 登録が失敗する	Developer 5/07
6498805	Live Upgrade で Java アプリケーションが動作しない	Developer 5/07
6453340	ログイン時に「デスクトップ表示」、「ウィンドウの一覧」、およびワークスペース切り替え器のロードが失敗する	Developer 5/07
6452649	ログイン時に GNOME パネルが終了する	Developer 5/07
6227829	CD デバイスおよび DVD デバイスのデフォルトの DMA 設定が原因で、特定のシステムに問題が発生することがある	Developer 5/07
6488396	リムーバブルメディアへのアクセス	Developer 2/07
6440673	Solaris Trusted Extensions のインストールに関する問題	Developer 2/07
6411690	SPARC: Solaris フラッシュアーカイブをインストールすると Sun4v システムがハングアップする	Developer 2/07
6478928	バッファの再利用が原因で長い ARC 相互排他スピニングが発生する	SX 12/06
6478246	不正なトラップ <code>ire_round_robin()</code> によってパニックが発生する	SX 12/06
6452077	DR: Starcat のスロットで <code>cfgadm -c</code> による構成が失敗する	SX 12/06
6448317	ディスクレスクライアントに対して多数の GNOME パッケージがインストールに失敗する	SX 12/06

表 1-1 統合されたバグ (続き)	
6442319	SMC による Solaris Trusted Extensions の管理に関する問題 SX 12/06
6423748	Sound Juicer および Nautilus CD Burner は HAL なしでは使用できない SX 12/06
6353146	x86: ドライバ更新を追加したときに、ネットワーク構成に失敗することがある SX 12/06
6467198	xdpiinfo コマンドで間違った拡張機能リストが表示される SX 11/06
6317659	SPARC: 保存停止・復元再開機能を使用すると Sun Blade 2500 システムがハングアップすることがある SX 11/06
6453083	add_install_client -e -f を実行すると、クライアントエントリが /etc/Ethers から削除される SX 9/06
6450019	GNOME 2.14 スクリーンセーバーのロックを解除するパスワードを入力できない SX 9/06
6439022	Solaris 管理コンソールサーバーの起動が失敗する SX 8/06
6419441	Solaris Express 6/06 リリース以降、Xorg サーバーで独自の NVIDIA ドライバを使用できない SX 8/06
6400907	IPv6 で bge によって間違ったチェックサムが取得される SX 8/06
6430207	SMC サーバーの起動が失敗する SX 7/06
6430143	vhci_pathinfo_state_change でパニックが発生する SX 7/06
6401605	pcie_error_init によって、0x00000000 ~ 0x??? の範囲のメモリーに対するアクセスが許可される SX 7/06
6410632	Solaris ZFS 管理アプリケーションが Sun Java Web Console に表示されない SX 6/06
6350819	Solaris Express 1/06 ソフトウェアインストール時の端末タイプの選択に関する問題 SX 6/06
6340509	ロケールキーワードを含むカスタム JumpStart プロファイルテストが失敗する SX 6/06
6409425	Build 37 リリースへのアップグレードが失敗する SX 5/06
6376682	作成前スクリプトの実行の問題が Solaris フラッシュアーカイブの作成に影響を与える SX 5/06
6350869	Generic LAN Driver Version 3 で Logical Link Control フレームのフィールド長の設定に失敗する SX 5/06

表 1-1 統合されたバグ (続き)

6346843	ブルガリア語のロケールでロシア語の文字のマップが使用される	SX 5/06
6336069	CD メディアまたはDVD メディアを使用して Solaris Live Upgrade ブート環境をアップグレードするときに、エラーが発生する	SX 5/06
6314583	セルビア語のロケールでロシア語の文字のマップが使用される	SX 5/06
6241781	Secure Shell デーモンが委任された資格を保存しない	SX 5/06
5110062	NFSv4 ドメインのプロンプトが <code>sysidtool</code> フレームワークによって実行されるようになった	SX 5/06
6383586	Solaris フラッシュアーカイブが正しくインストールされず、SMF サービスが使用不可になる	SX 4/06
6352813	サイズの大きなディスクの場合に、 <code>mkfs</code> コマンドを使用してファイルシステムを作成できないことがある	SX 4/06
6303564	Solaris OS へのシンボリックリンクが変更されると、 <code>SUNWceuw</code> パッケージが適切にアップグレードされない	SX 4/06
6303241	x86: 現在の Solaris Express リリースにアップグレードすると、GLX モジュールが上書きされる	SX 4/06
6372842	<code>kdmconfig</code> で一部のキー配列名が変更されている	SX 3/06
6372560	Solaris Express 2/06 OS のインストール時に、システムがハングアップしたように見える	SX 3/06
6301627	ストレージエリアネットワークに含まれるサーバー上のリンクを再初期化すると、すべてのサーバー上の論理ユニット番号がリセットされる	SX 3/06
6272126	Sun Fire V65x サーバーの ACPI BIOS 情報が間違っている	SX 3/06
6241782	<code>gss_store_cred()</code> 関数の上書きパラメータが失敗する	SX 3/06
5077933	ストレージエリアネットワークのファブリックゾーンでデバイスがすぐに使用できる状態にならない	SX 3/06
6354739	インストール時に新しいロケールを選択すると、インストールが失敗する	SX 2/06
6350486	<code>localeadm</code> コマンドを使用して地域を追加できない	SX 2/06
6338316	Solaris Express 11/05 リリースがインストールされたシステムでフロッピーディスクドライブを使用できない	SX 2/06

表 1-1 統合されたバグ (続き)	
6329929	SPARC: GNOME オンスクリーンキーボードを使用して設定するときの問題 SX 2/06
6356098	インストールの直後は ZFS 管理アプリケーションが使用不可になる SX 1/06
6342813	Solaris Express 12/05 リリースへのアップグレードでボリュームデバイスドライバがロードされない SX 1/06
6333461	e1000g Ethernet ドライバをアンロードすると、システムパニックが発生することがある SX 1/06
6346510	小さなスライスにファイルシステムを作成できないことがある SX 12/05
6334799	sd ドライバや ssd ドライバの入出力の問題によりシステムがハングアップする SX 12/05
6332093	インストール中またはアップグレード中にカスタム JumpStart が一時停止する SX 12/05
6331510	インストール時に ns_files.xml ファイルが上書きされる SX 12/05
6330877	ストリーミング SIMD 拡張 2 命令セットがサポートされていないとシステムで障害が発生する SX 12/05
6329642	SPARC: Solaris OS DVD からシステムブートするときロードキーの警告が表示される SX 12/05
6329593	dbx デバッガと GNU デバッガに関連する問題 SX 12/05
6312424	SPARC: 動的再構成の実行中にエラーメッセージが表示される SX 12/05
6273030	全画面の拡大鏡とキーボードのアクセシビリティ機能が動作しない SX 12/05
6208656	Solaris GUI インストールプログラムが Solaris フラッシュアーカイブのインストールで失敗する場合があります SX 12/05
6262272	システムのメモリーが 256M バイト未満の場合、システムのブートが失敗することがある SX 11/05
6256048	Solaris フラッシュアーカイブの作成時に、2G バイトより大きいファイルが格納されない SX 11/05
6295862	コマンド行ユーティリティーが en_GB.UTF-8 ロケールで動作しない SX 10/05
6280765	Solaris Express 7/05 OS で StarSuite が起動しない SX 10/05

表 1-1 統合されたバグ (続き)

6231291	Solaris OS のインストール後、設定手順がスキップされる	SX 10/05
6304033	ブートパーティションが存在しているシステムは、アップグレード後に正しくブートしないことがある	SX 9/05
6296944	CGTP ネットワーク設定でシステムパニックが発生することがある	SX 9/05
6293801	SPARC: Developer 9/05 リリースで Sun PGX グラフィックドライバが動作しない	SX 9/05
6279238	多量のネットワークトラフィック下で Sun Fire V440 システムにパニックが発生することがある	SX 9/05
6266985	現在のリリースで Cassini ギガビット Ethernet ドライバが動作しない	SX 9/05
4992478	マウントポイントのアクセス権が作成したブート環境に保存されない	SX 9/05
6282885	Solaris Express 7/05 OS で使用する場合、特定の Logitech USB マウスデバイスがハングアップする	SX 8/05
6266969	regex() 関数で、指定された特定の表現の照合が失敗することがある	SX 8/05
6189823	localeadm -l を実行してもインストールされた韓国語ロケールパッケージが表示されない	SX 8/05
6272302	特定のネットワークアダプタでパケットアナライザの実行と終了を行うと、システムパニックが発生することがある	SX 7/05
6272095	現在の Solaris リリースで GNU C コンパイラのインストールが失敗する	SX 7/05
6271759	pwdx コマンドで、任意のユーザーが作業用ディレクトリを表示できる	SX 7/05
6271688	/proc 内でディレクトリを切り替えるアプリケーションによって、システムパニックが発生することがある	SX 7/05
6259168	現在の Solaris リリースのインストール後、USB デバイスのないシステムにパニックが発生することがある	SX 7/05
6256056	t1 ドライバの使用中に競合状態によってシステムパニックが発生することがある	SX 7/05
6249712	動的再構成の実行中にシステムがハングアップする	SX 7/05

表 1-1 統合されたバグ	(続き)	
6235086	ネットワークからブートされた場合、Sun Fire V40z サーバーにパニックが発生することがある	SX 7/05
6232864	動的再構成の実行中にシステムパニックが発生することがある	SX 7/05
6216195	大域ゾーンのパッチ適用後に作成された非大域ゾーンにリモートログインサービスでアクセスできない	SX 7/05
6234227	Solaris Express 3/05 がインストールされたシステムでは、暗号化された DVD や市販のムービー DVD を使用してはならない	SX 6/05
6233202	Solaris Live Upgrade を使用すると Solaris Express へのアップグレードが失敗する	SX 6/05
6230700	SCTP ソケットベースのアプリケーションによってシステムパニックが発生する	SX 6/05
6226332	冗長オプションを使用して ipf.conf を処理すると、システムパニックが発生することがある	SX 6/05
6221374	svccfg import サブコマンドで依存サービスが更新されない	SX 6/05
6212965	現在の Solaris Express リリースで Mozilla が起動しない	SX 6/05
6209619	USB 2.0 ハブを USB 1.x デバイスとともに使用すると、システムパニックが発生することがある	SX 6/05
6204987	特定のマザーボードで EHCI ドライバが使用できない	SX 6/05
6200924	再生または録音操作時に USB オーディオデバイスを一時停止すると、システムのデッドロックが発生することがある	SX 6/05
4640568	SPARC: インストールまたはアップグレード後、複数のインタフェースを持つシステムがすべてのインタフェースを使用可能と認識する	SX 6/05
4720192、 6215918	インストール後、/dev および /devices/pseudo のアクセス権が不適切に設定される	SX 6/05
6244945	Solaris Express 6/05 リリースから現在のリリースにアップグレードするには、ファイルシステムの再マウントが必要	SX 4/05
6219932	一部のロケールで X キーボード拡張を使用するときに Compose キーシーケンスが機能しないことがある	SX 4/05
6218158	Solaris 10 OS のインストール後に Java エラーメッセージが表示される	SX 4/05

表 1-1 統合されたバグ (続き)

6215739	主インタフェースでないインタフェースを構成し DHCP を有効にすると、Solaris GUI インストールプログラムが失敗する	SX 4/05
5042195	x86: fdisk コマンドまたは format コマンドでディスクの一部しか使用できない	SX 4/05
6222925	Solaris Live Upgrade を使用して Solaris フラッシュアーカイブを空のブート環境にインストールするとインストールが失敗する	SX 3/05
6203680	FireWire (IEEE 1394) ストレージデバイスによってシステムパニックが発生することがある	SX 3/05
6215847	Solaris フラッシュアーカイブのインストール時に Solaris 10 インストールディスクが排出される	SX 3/05
5087588	s10_64 以降のパッケージのインストールが install_log に記録されない	SX 3/05
5062018	SPARC: 保存停止・復元再開サイクル中にカーネルデバッグがアクティブになっているシステムがパニックになることがある	SX 3/05
5042573	SPARC: 共通デスクトップ環境のログインサービスにおいて、いくつかの UTF-8 ロケールが利用できない	SX 3/05
4967742	Solaris インストール CD を使用する場合、ロケールのインストールが失敗する	SX 3/05
4915974	Solaris Live Upgrade を使用してアップグレードを行うと、Solstice DiskSuite の構成が Solaris ポリュームマネージャー形式に変換されない	SX 3/05
問題	Solaris 10 ソフトウェアで SUNWsan を介してストレージエリアネットワークにアクセスできない	Solaris 10 OS
問題	Sun Studio 12 へのアップグレードに関する注意事項	Developer 9/07
問題	Solaris Trusted Extensions は Xsun X サーバーを使用する必要がある	Developer 2/07
問題	Solaris ソフトウェアの物理的な配布媒体は DVD のみになった	
問題	新しい最小メモリー要件	
問題	StarSuite パッチアプリケーションに必要な追加手順	
問題	Solaris Live Upgrade を使用して Solaris Express 6/05 にアップグレードできない	





## サポート中止に関する情報

---

この章では、製品のサポート中止情報について説明します。

### **Solaris Express** リリースから削除された機能

この節では、Solaris ソフトウェアでサポートされなくなった機能について説明します。

#### **Sun Trunking** のサポート

Sun Quad FastEthernet (QFE) デバイス向けの Sun Trunking のサポートは提供されなくなりました。QFE デバイスのリンク集積体のサポートについては、GLDv3 の新しい集積体サポートを使用するようにしてください。詳細は、`dladm(1M)` のマニュアルページを参照してください。

#### **Sun Fire Link** のサポート

Sun Fire Link 機能 (Wildcat RSM) は提供されなくなりました。

#### **モバイル IP**

`mipagent(1M)` のマニュアルページで説明されているモバイル IPv4 機能は、提供されなくなりました。

## I2O インテリジェント入出力

I2O インテリジェント入出力ドライバフレームワークおよび対応するすべてのドライバがサポートされなくなりました。これには、`i2o_bs(7D)` と `i2o_scsi(7D)` ドライバ、および I2O に関連するすべての機能が含まれます。

## Remote Program Load サーバー機能

`rpld(1M)` および `rpld.conf(4)` によって提供される RPL (Remote Program Load) サーバー機能は、Solaris で提供されなくなりました。

## pam\_projects(5)

`pam_projects(5)` は提供されなくなりました。その機能はすべて `pam_unix_cred(5)` に組み込まれています。未変換の `pam.conf(4)` ファイルがある場合は、`pam_projects.so.1` への参照をすべて削除してください。

## Gnopernicus

Java DS のスクリーンリーダー Gnopernicus は提供されなくなりました。代わりに Orca スクリーンリーダーを使用するようにしてください。

## Xsun サーバー

Developer リリース以降、X Window System の Xsun サーバーは含まれなくなりました。Xorg サーバーに移行するようにしてください。

Display Postscript (DPS) や X イメージング拡張機能 (XIE) など、Xsun では提供されているが Xorg では提供されていない機能は、このリリースに含まれていません。

## Sun Install Check のリリースノート

Sun<sup>SM</sup> Install Check は、サポートされなくなったレガシーアプリケーションです。カスタムおよび包括的なパッチとリスク分析については、<http://www.sun.com/service/consulting/index.jsp> で提供されているさまざまなサービスを参照してください。

## SPARC: JNI ファイバチャネルアダプタ

Solaris Express 9/06 リリース以降、JNI™ ファイバチャネルアダプタ (JFCA) ドライバはサポートされなくなりました。

詳細は、次の項目を参照してください。

- <http://sundoc.central.sun.com/SunWINPublicView.jsp?token=444304>
- <http://sundoc.central.sun.com/SunWINPublicView.jsp?token=449152>

## Sun Java Desktop System

Solaris Express 7/06 リリース以降、次に示す Java DS 機能はサポートされなくなりました。

- PDF ファイルおよび PostScript™ ファイルの GNOME ビューア
- GNOME プロジェクトプランナ
- Java DS Image Organizer
- Java DS Disk Analyzer
- Java DS Dictionary
- Java DS Text Editor
- Java DS Diagram Editor
- Sun Java Calendar Preview

PDF ファイルおよび PostScript ファイルの GNOME ビューアは、PDF ファイルおよび PostScript ファイルの Evince ビューアで置き換えられました。

## デスクトップ管理インタフェース

Solaris Express 5/06 リリース以降、次に示すデスクトップ管理インタフェース (DMI) のコマンド、ライブラリ、およびパッケージはサポートされなくなりました。

- dmiget
- dmi\_cmd
- dmispd
- snmpXdmid
- libdmi
- libdmici
- libdmimi
- SUNWsadmi

この機能は、次に示す Solaris OS の代替機能のいずれかに含まれています。

- WBEM (Web-based Enterprise Management)
- CIMOM (Common Information Model/Object Model)

## 特定のドライバが **Solaris Express 4/06** リリースでサポートされなくなる

次のドライバは、Solaris Express 4/06 リリースでサポートされなくなります。

- SUNWrtvc: SunVideo™ リアルタイムビデオキャプチャーおよび圧縮カード用デバイスドライバ
- SUNWdial: ダイアルとポタンデバイス用ストリームモジュール
- SUNWdialh: ダイアルとポタンデバイス用ヘッダーファイル

## コントローラデバイスとドライバ

Solaris Express 2/06 リリース以降、次のデバイスはサポートされなくなりました。

- IBM PC ServeRAID SCSI
- IBM ServeRAID II Ultra SCSI
- IBM ServeRAID-3 Ultra2 SCSI

また、これらのコントローラ用のデバイスドライバもサポートされなくなりました。

## デュアル基本速度 **ISDN** インタフェースとマルチメディアコーデックチップ

Solaris Express 2/06 リリース以降、T5900FC デュアル基本速度 ISDN インタフェース (DBRI) および関連するマルチメディアコーデックチップはサポートされなくなりました。また、これらのデバイス用のデバイスドライバもサポートされなくなりました。

## Framed Access Control Environment

FACE (Framed Access Control Environment) は現在の Solaris リリースから削除されました。次のディレクトリ内のコマンドとファイルもすべて削除されています。

- /usr/oasys
- /usr/vmsys

## アジアの短縮 dtlogin 名

次にリストするアジアの短縮ロケール名は、Solaris ソフトウェアの dtlogin 言語リストに含まれなくなりました。

- zh.GBK
- zh.UTF-8
- ko.UTF-8

## 自動セキュリティー拡張ツールのサポート

Solaris Express 2/06 リリース以降、`/usr/aset` ディレクトリ内の自動セキュリティー拡張ツール (ASET) によって提供されるチェックサム機能は使用できなくなりました。

この機能は、次のいずれかの代替ソースにあります。

- Solaris 10 OS の基本監査報告ツール、`bart`
- Solaris Security Toolkit (<http://www.sun.com/software/security/jass/>)
- Solaris Fingerprint Database (<http://sunsolve.sun.com/pub-cgi/show.pl?target=content/content7>)

